教育実践コミュニティにおける実践知の共有
—パターン・ランゲージの開発を通じて—

髙尾郁子 *1・長田尚子 *2・デイヴィス恵美 *3・神崎秀嗣 *4・田中浩朗 *5・飯吉 透 *6
Email: takao@mb.kyoto-phu.ac.jp

*1: 京都薬科大学 学生実習支援センター
*2: 立命館大学 共通教育推進機構
*3: 大阪成蹊大学 国際観光学部
*4: 秀明大学 看護学部
*5: 東京電機大学 工学部
*6: 京都大学 学術情報メディアセンター

◎Key Words　実践知，コースポートフォリオ，授業アイデア共有サイト，パターン・ランゲージ

1. はじめに

大学教育では，ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実質化に向けて，教育改善を目指す実践コミュニティの存在が注目されてきた。実践コミュニティは実践知の創造に重要な役割を果たすと考えられているが[1]，効果的な記述と共有の方法については十分解明されていない。本研究では，教育実践を通して得られる教えと学びに関する多様な知見を実践知ととらえ[2]，大学横断の相互研修型 FD から発展した実践コミュニティを事例に，そこでの活動を推進する暗黙知をパターン・ランゲージとしてまとめる活動を通じて，実践コミュニティにおける実践知の内容・表現上の特徴と役割を整理することを目指す。

本稿では，対象の実践コミュニティとパターン・ランゲージの開発活動を概観し，実践コミュニティにおける多様な実践知の役割を検討する。その上で，本研究を通じて顕在化した実践知の特徴と役割を整理し，教育実践コミュニティにおける活動の推進に向けた問題提起を行う。

2. MOST フェローシッププログラム

2.1 実践コミュニティへの発展

本研究では，MOST（Mutual Online System for Teaching and Learning）フェローシッププログラムという教育改善を目指す大学教員のネットワーキングから発展した教員コミュニティを対象とする[3]。プログラムの活動は 1 年間で，専門，役職，経験年数が多様な教員が，全国から各期 10 名程度公募される。選抜されたフェローは，対面やオンラインで活動のプロセスを共有しながら，各自の教育実践を改善し，成果をまとめて発表する。1 年間の活動の中には，同期のフェローや修了生との交流機会があり，修了後も教育改善に関わる活動が継続している。本研究では，活動が継続する場を実践コミュニティとして捉え，MOST コミュニティと呼称し検討対象とする。プログラム自体は終了しているが，MOST コミュニティの活動はオンラインを中心に対面でのイベントを加える形で継続している[4]。

2.2 パターン・ランゲージの開発

MOST コミュニティにおけるパターン・ランゲージの開発は，有志によって 2021 年 6 月に開始され，2023 年 3 月に初版をとりまとめて公開した。パターン・ランゲージは，よい結果を生み出すための実践の本質を捉えて言葉にしたものである。ある領域の「経験則」，「コツ」，「型」として考えることも可能で，多くの分野で活用が進んでいる。ある領域についてパターンを作成することにより，今まで注目していなかったことが見えてくる（認識のメガネ）。さらに，パターンを参照して思考や行動をデザインすることができる（思考の構成要素）。そして，パターンを使って実際にコミュニケーションをとることが可能になる（コミュニケーションの語彙）[5]。

このようなパターン・ランゲージを開発する過程で，MOST コミュニティに内在する多様な実践知について議論がなされ，このコミュニティでは実践知が以下の三つの形で記述・共有されていることが明らかになった。第一に，各自の授業の特徴と改善の経過を一定の形式でまとめたコースポートフォリオである。第二に，授業の内容やレベルに関わらず簡便に使えるノウハウやツール等をシステム上にまとめた授業アイデア共有サイトである。第三に，実践コミュニティにおける自発的・継続的な活動を推進するコツをまとめたパターン・ランゲージである。次章では，これらの実践知の具体例を参照しながら，それぞれの特徴を整理する。

3. 実践知の検討

3.1 コースポートフォリオ

個人の教員が担当する授業科目には，その授業特有のデザインや実施，学生の学びや改善の経過などから得られる実践知が存在する。コースポートフォリオは，授業実施期間中の教授活動の記録やリフレクション，学生の学びに関するエビデンスの取得や分析を記述することで，コースにおける教育活動とその実践知を可視化できるとともに，その振り返りや改善を促すことができる。また，ウェブ上で他の教員とコースポートフォリオを共有することにより，改善に向けた議論や実践知を分かち合うことが可能となる。コースポートフォリオは作成にハードルがあるが，ポートフォリオ作成支援ツール KEEP Toolkit を利用すれば，効率的かつ効果的に電子ポートフォリオを作成することができる。KEEP Toolkit では，ポートフォ

図１　コースポートフォリオのテンプレート[6]

リオの構成や，記述内容に対する視点があらかじめテンプレートとして提示されている。テンプレートは，「コースの基本情報」「学習目標」「教授法・教材・学習活動」「実際の授業」「学生の学び」「コースに対する振り返り」「同僚のコメント」「参考文献・資料」の８つのボックスで構成されており，各ボックス内は簡潔にまとめるよう指示されている。そのため，作成者は効率的・効果的にポートフォリオが作成できるうえ，関心のある他者がコースの概要や成果を短時間で理解できるように設計されている。図１は酒井・田口（2011）が示した図を見易く拡大したものである[6]。

MOST フェローシッププログラムの終了後，MOST コミュニティ内で作成されたコースポートフォリオは現在別サイトにアーカイブされ継続的に参照可能になっている[3]。MOST コミュニティでは，このようなコースポートフォリオを利用して，授業実施期間中から終了後まで改善に向けた議論を共有することが可能であった。そのためコースポートフォリオは個別の実践を記述し振り返る目的以外に，その作成過程でコミュニティメンバーとともにその実践知を一緒にまとめる活動を伴うことから，コミュニティが生み出す実践知を記述するとともに，コミュニティの形成にも役立っていたと考えられる。

3.2　授業アイデア共有サイト

日々の授業改善の中では，授業内容やレベルにかかわらず使える教育的ノウハウやツール，アイデアなどが創出される。授業アイデア共有サイトは，このような個別具体的な授業実践から抽出された工夫をできるだけ脱文脈

図２　MOS 宝の画面例

図 3 冊子形式のパターンの例 [8]

化し，コンパクトな「レシピ集」のような形でコンテンツ化することで共有するためのシステムとして開発された[7]。

サイト上ではコツや工夫を MOS 宝（モストレジャー）と呼び，MOS 宝の投稿，閲覧，相互評価が可能となっている。MOS 宝は準備物，ポイント，手順といった項目に沿って説明される。その際，画像やリンクが利用できる。また該当カテゴリーには，分野などあらかじめ設定したタグを選んで付与できるほか，自由入力によるタグ付けが可能である。利用者は多くの投稿からタグ検索により，関連する投稿を見つけ出すことができる。MOS 宝のような気軽な入り口から，コースポートフォリオ等豊かな情報を持ったコンテンツにアクセスしやすくなることも期待される[7]。現在 MOS 宝は，MOST コミュニティ内限定サイト「MOSTreasure」として活用されている。

3.3 パターン・ランゲージ

活動が継続する実践コミュニティには，そのメンバーに自発的・継続的な活動を推進する思考や行動における知が存在する。MOST コミュニティで開発したパターン・ランゲージ「教育に情熱を注ぐ大学教員を後押しするコミュニティのことば」は [8]，実践コミュニティに参加して活動する経験則やコツを，状況・問題・解決を軸に中空のことば（理念のように抽象的すぎずマニュアルのように具体的すぎない）でまとめ，冊子形式，カード形式としてオンラインで共有可能にしたものである。

このパターン・ランゲージは参加している実践コミュニティへの理解の深化（認識のメガネ）が期待できる。また，コミュニケーションの語彙，思考の構成としての利用促進といった働きをもつ。例えば，MOST コミュニティのパターン・ランゲージの中の一つのパターンとしての「共通のことばを持つ」は，MOST フェローシッププログラムでのコースポートフォリオ作成や夏合宿，学会発表などへの参加がコミュニティへの歩み出しに貢献したという参加メンバーの経験則から作成された。図 3 に冊子見開きイメージで内容を示している。ここでは，コミュニティへの参加初期は自分の悩みがうまく表現できず不安が生じるが，コミュニティでの共通体験を共有することでお互いを知るきっかけになることが示されている。それに加えて，前項で示したコースポートフォリオは実践知の一つの形式といえるが，記述して流通するという一般的な目的以外に，その実践知を一緒にまとめながら活動を共有することで，実践コミュニティでの活動が促進され，発展につながっていくこともこのパターンで示唆されている。

その他にも，本パターン・ランゲージには背景も分野も異なる参加メンバーによる実践コミュニティであるからこそ，そこでどのように実践知の共有が可能になっていくのか，ということに関する経験則がまとめられている。図 4 はその一例である。現在カードはワークショップ等にも用いられている。このように，実践コミュニティにおける自発的・継続的な活動を推進するコツをパターン・ランゲージとしてまとめることで，よりよい実践を生み出す考え方や行動の型として共有・活用可能になる。

図 4 カード形式のパターンの例 [8]

表 1　MOST コミュニティにおける多様な実践知

実践知の表現形式	コースポートフォリオ	授業アイデア共有サイト	パターン・ランゲージ
実践知の内容	各自の授業の特徴と改善の経過	授業の内容やレベルに関わらず簡便に相互利用できるアイデア	コミュニティにおける自発的・継続的な活動を推進する思考や行動
具体例（形態）	オンラインFD支援システム MOST（会員制コミュニティサイト）	授業改善のためのアイデア共有サイト MOSTreasure（投稿・検索可能なWEBサイト）	教育に情熱を注ぐ大学教員を後押しするコミュニティのことば（冊子・カード・オンライン共有）
表現上の特徴	取り組み内容をまとめ,他者が短時間で取り組みの内容を理解できるようなテンプレート形式	教育的ノウハウやテクニックを、どこでも手軽に応用できるようにコンパクトにまとめたレシピ集のような形式	コミュニティに参加して活動する経験則やコツを，状況・問題・解決を軸に中空の言葉（理念のように抽象的すぎずマニュアルのように具体的すぎない）でまとめたもの
役割	・教員にコースの振り返りや改善を促す ・取り組み成果の公開・共有 ・教育改善を協働で行うための活動の場	・現場の特徴や条件等を取り払って気軽に使える形でのアイデア共有 ・コミュニティの知識の気軽な流通	・参加しているコミュニティへの理解深化「認識のメガネ」 ・「コミュニケーションの語彙」,「思考の構成要素」としての利用

3.4　実践知の整理

ここまでMOST コミュニティの中に存在すると考えられる 3 つの実践知の概要を紹介し，それぞれの特徴を考察してきた。本章の最後として，MOST コミュニティのような教育実践コミュニティにおける多様な実践知の中から，今回の 3 つの特徴と役割について比較検討を行いたい（表 1）。

表 1 から以下の 3 点を示したい。第一に，実践知の形態である。コロナ禍も経て，実践コミュニティはハイブリッドな環境での運営を前提とすることが多い。今回の3つの実践知はいずれもオンラインで生成と共有が可能である。この実践知の可視化と共有の過程が実践コミュニティの活動推進にもつながっていた。第二に表現上の特徴である。コースポートフォリオは，簡潔な形式であってもその中に授業が行われている環境の文脈や特徴が盛り込まれていた。それによって記載した教員の名刺代わりにもなり，相互理解を深める働きもしていた。一方で，MOS 宝とパターン・ランゲージは,目的は異なるものの具体的な文脈を取り払うことで，共有の促進につながる形式となっていた。最後に，実践知のあり方である。従来は成果の共有と流通が主な目的であったと考えられるが，今回検討してきたように，実践知そのものが共有と流通を促進する原動力になっていた。とくに，パターン・ランゲージは創造的な実践を生み出す型であると位置づけることもでき，それを記述する過程も実践コミュニティの学びの場となっている。

4.　まとめと今後の課題

近年では教育実践に関わる実践報告や実践研究を発表するフォーラムや研究会が設けられ，ジャーナルには実践研究論文というカテゴリーが設定されている場合も少なくない。その一方で，本論文で紹介した 3 つの実践知は，そのような発表に向けて実証された知や一般化された知とは異なるが，教育実践コミュニティを形成して活動を推進していくために欠かせない実践知であることが示された。生成 AI の浸透により知のあり方が変貌を遂げようとする段階の今，実践コミュニティにおける実践知の役割と今後のあり方について，さらに検討を重ねていく必要がある。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 22H01024 の助成を受けている。

参考文献

(1) Wenger, E., McDermott, R., & Snyder, W. : “Cultivating communities of practice”, Harvard Business School Press, (2002),（邦訳）野村恭彦監修，野中郁次郎解説，櫻井祐子訳 : “コミュニティ・オブ・プラクティス ― ナレッジ社会の新たな知識形態の実践”，翔泳社（2002）.

(2) 京都大学高等教育研究開発推進センター（編），松下佳代（編集代表）: “大学教育のネットワークを創る FD の明日へ”，東信堂（2011）.

(3) MOST フェロー, MOST Fellowship Web : https://mostf.pep-rg.jp/home（2023）.（2024 年 6 月 21 日閲覧）

(4) 木村修平，近藤雪絵，神谷健一，坂本洋子，神崎秀嗣，長谷川元洋 : “オンライン授業の相互見学による大学横断型 FD の可能性と課題”，2021PC カンファレンス論文集，pp.112-115（2021）.

(5) 井庭崇，中埜博，竹中平蔵，江渡浩一郎，中西泰人，羽生田栄一 : “パターン・ランゲージ―創造的な未来をつくるための言語”，慶應義塾大学出版会（2013）.

(6) 酒井博之，田口真奈 : “大学教員のためのコースポートフォリオ実践プログラムの開発”,日本教育工学会論文誌，第 36 号，pp35-44（2012）.

(7) 田口真奈，酒井博之，岡本雅子，飯吉透 : “大学における授業改善のためのアイデア集積サイト MOS 宝の開発”，日本教育工学会第 31 回大会（2015）.

(8) 長田尚子，デイヴィス恵美，神崎秀嗣，町田小織，髙尾郁子，田中浩朗 : “教育に情熱を注ぐ大学教員を後押しするコミュニティのことば”，『MOST Fellowship Web』研究紹介 MOST パターン・ランゲージの会（https://mostf.pep-rg.jp/researches/researchgroup1）（2023）.（2024 年 6 月 21 日閲覧）